

特別展
橋本コレクション

中国の墨竹

会期 昭和62年12月8日(火)～昭和63年1月24日(日)
陳列中(12月27日(日)より)一部陳列替があります。

※第一会場 (地下1階主陳列室)

※第二会場 (2階特別陳列室)

渋谷区立松濤美術館



朱端「竹石図」(図2)

講演会 昭和62年12月12日(土)午後2時～
「画竹の見かた」奈良大学教授 古原宏伸氏
昭和63年1月9日(土)午後2時～
「明末清初の墨竹」京都大学助教授 曾布川寛氏



顧安「墨竹図」(図1)



項元汴「竹石図扇面」(図3)

中国の墨竹

中国の墨竹は、11世紀・北宋時代、蘇軾、文同らにより文人の墨戯として確立され、現代まで綿々と行われている。蘇軾は字・子瞻、号・東坡。詩人、書家として有名であるが、その一生は役人として左遷々々の生涯を終え且つ優れた芸術を残した人物として、人の尊敬を集めている。中でも〈赤壁の賦〉は有名である。一方、文同は同じく役人ではあったが、蘇軾ほど悲劇的ではなく、最後には、湖州（浙江省呉興）の長官に任命され、それに因んで文湖州とよばれている。やはり詩、書を善くし、特にその文同に始まる墨竹の流れを湖州竹派という。詩文集に『丹淵集』がある。金代では、王庭筠の「幽竹枯槎図卷」（京都、藤井有鄰館）がある。

このような環境の中で発達した墨竹画は、次の元時代に受け継がれ、李衍は墨竹を善くする一方、『竹譜詳録』を著した。子の李士行も墨竹を善くした。李衍は吏部尚書、集賢大学士の高官に至っている。出陳されている「墨竹図」(図1)の顧安は元末の人であり、やはり役人であるが、墨竹をたしなみ、倪瓚、楊維禎らとの合作もある。元代では他に、趙

孟頫、柯九思、呉鎮らが墨竹を描いている。

明代では、更に発展を遂げ、様々な個性の墨竹を見ることが出来る。それだけ墨竹が人々の間に普及したということだ。出陳されている「竹石図」(図2)の朱端は、画院の画家。正徳年間(1506~1521)画院に入り、仁智殿に奉職、「欽賜一樵図書」の印を賜った。朱端は字・克正、号・一樵。海塩（浙江省）の人。文人の墨戯から離れ、絵画の一分野として確立した墨竹の様を、そこに見ることが出来る。朱端の以前には、夏景がおり、李衍の墨竹を継承した。書画の収蔵家として有名な項元汴の「竹石図」(図3)も明代文人の墨戯の一端を窺わせるものとして、興味深い。項元汴は字・子京、号・墨林山人、香巖居士。書室を天籟閣という。秀水（浙江省）の人。史顔節の「月明竹石図」(図4)は臘月夜に浮かぶ楚々たる竹を表しており、新風を見出すことが出来る。諸昇、徐枋も竹を描いて有名である。

清代では、鄭燮の「竹石図」(図5)がある。鄭燮は字・克柔、号・板橋。興化（江蘇省）の人。乾隆年間(1736~1795)揚州に集



史顔節「月明竹石図」(図4)



鄭雙「竹石図」(図5)



吳昌碩「修竹図」(図6)

まった八人の個性溢れる画家、揚州八怪の一人。詩書画ともに善くし、山東省范県、濰県の知事を務めた。その人柄は現代でも圧倒的人気を集めている。八怪の一人の李方膺の「竹石図」は乾隆18年(1753)の作。李方膺は字・虬仲、号・晴江・秋池。南通(江蘇省)の人。安徽(河南省)の知県を務める。

その他、日本に渡来した僧、商人、画家、いわゆる来舶画人の作品も、その影響を考えると見逃せない。

近代では、吳昌碩の「修竹図」、光緒34年(1908)(図6)がある。吳昌碩は字・倉石、号・缶廬、苦鉄、大聾など。安吉(浙江省)の人。書画篆刻を善くし、その大胆な芸風は日本、中国の書画篆刻家に多大な影響を与えている。他に、余紹宋の「新篁図」(1944)(図7)がある。余紹宋は字・越園、号・寒柯。日本の法政大学に留学、帰国後は官界で活躍したが、傍ら『書画書録解題』『画法要録』などの著書を残している。



余紹宋「新篁図」(図7)

松濤美術館・平面図

■美術相談

美術作家を招き、皆さんの作品を見ながら、技術指導や相談を行います。美術史・美術図書の相談にも応じます。(油絵指導をご希望の方は絵の具、筆などをお持ちください)

★相談日時・相談員

12月27日(日) 午後1:00～4:00

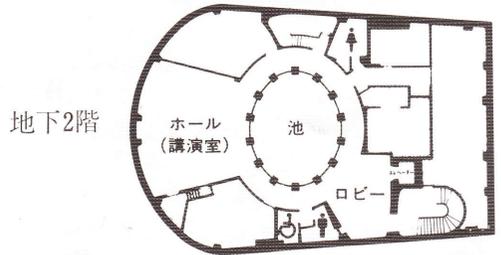
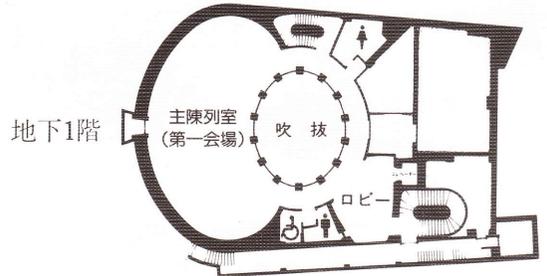
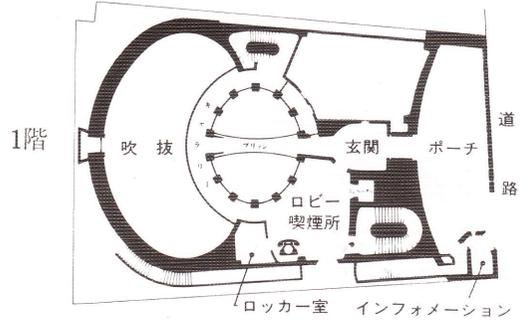
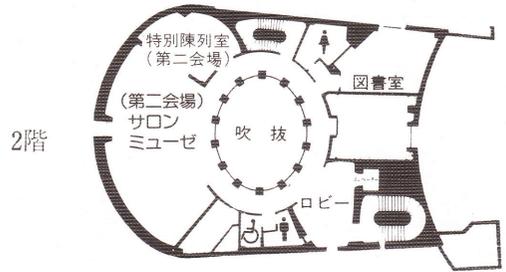
版画家 畑農照雄氏/日本画家 戸田康一氏

1月24日(日) 午後1:00～4:00

洋画家 宮田翁輔氏/日本画家 滝沢具幸氏

★申込方法 事前に電話で相談内容をお知らせください。

★料 金 入館料のみ



■美術映画会

12月27日(日)午後2:00～

「近世異端の画家―蕭白」

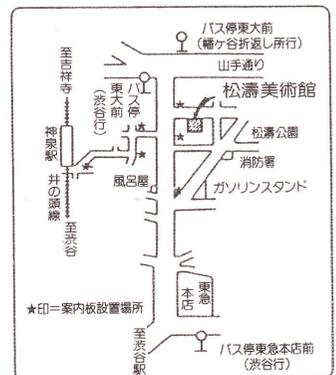
「宗達―空間の魔術師」

1月17日(日) 午後2:00～

「山水―京都国立博物館の展示から」

「近代水墨画」「中国絵画」「水墨画」

案内図



- 会 期 昭和62年12月8日(火)～昭和63年1月24日(日)
- 休 館 日 第2日曜日及び他の週の月曜日 祝日の翌日
12月13日(日)、21日(月)、年末年始12月28日(月)～
1月4日(月)、1月10日(日)、16日(土)、18日(月)
- 開館時間 午前9時～午後5時(ただし入館は4時30分)
- 入 館 料

	個人	団体(20人以上)
一 般	200円	160円
小中学生	100円	80円